

「鯨類認知活動、仙台湾スナメリ生息域調査について」

ドルフィントレーナー専攻 2年

上原佳乃 近江海 大川原碧音 高橋ふうき 高橋莉央

舘山凧紗 平子菜々 福田楓乃 三浦萌 山崎彩花

山口優香 渡邊羽奈

<目的>

おしかホエールランドにて、体験型イベントを通し、400名以上の方に鯨類の魅力在五感で感じてもらいより深く知ってもらうきっかけを作る。また仙台湾におけるスナメリの生息域、頭数を調査し、発見時の行動から宮城のスナメリが最北限である理由を考察する。

<方法>

- ・おしかホエールランドで年に5回ワークショップを開催した。
- ・おしかホエールランド漆間様、山本様ご協力のもと、えびす屋釣具店手配の釣り船上よりスナメリの目視調査を3回実施。実際に生息しているかどうか調査した。

<結果>

鯨類普及活動については年5回のイベント参加者の合計が434名と目標を上回ることができた。前年度からイベント内容を大幅に変え、お客様が鯨類の魅力在五感で感じてもらえる「体験型」を意識した結果大人の参加者が多く見られた。(クイズラリー、イルカの感触体験、イルカの骨タッチ、クジラと人間の脳の重さの比較、音で視る世界等)

スナメリの生調査については計3回(6/25、7/30、9/11)船上調査を行い、6/25・7/30の2日間の調査で発見することができた。

6/25 気温：27.5 天気：曇り 水温：23.3℃ 20頭前後の群れ発見(右側写真)

7/30 気温：26.5 天気：晴れ 水温：26℃ 3頭発見

9/11 気温：31.0 天気：晴れ 水温：28.0℃ 発見なし



<考察>

鯨類普及活動については、前年度よりイベント参加者の目標を高く設定し、実施内容を今年度は体験型に変えることで子どもから大人まで幅広い年齢層に鯨類の魅力を伝えられたことで今年の動員を上回り目標人数の400名を上回ることができたと考えられる。また新たな方法として、事前におしかホエールランド様にポスターを掲示して頂き、イベントの告知を行う、ターゲット層を大人から子どもへと変えるため体験型イベントを増やすなどの取り組みを行ったことも要因の一つと考えられる。また仙台湾のスナメリの生息調査については、発見時と未発見時を比較して、天候風力に差はあまり見られなかったが、未発見時は気温・水温がともに高かったため、発見することができなかった可能性が考えられる。

また6月25日の船上での調査では20匹以上の集団を確認したが、本来スナメリの群れは1～3匹と小規模であるため、観察された状況より、餌を追い求めて複数の群れが一斉に餌となる魚群を追い求めていたこと、また何からの社会行動をとっていたために複数頭観測できたのではないかと考えられる。

<まとめ>

鯨類普及活動では当初の予定よりもイベントの実施回数が少なくなりましたが、ターゲット層の変更とイベント内容の改善により、目的であった参加者人数の増加とお客様に鯨類の魅力在五感で感じてもらうことを達成することができた。スナメリの生息域調査では調査範囲を仙台湾内より広範囲で設定し、調査回数を増やすことでより正確なスナメリの生息域解明に繋げたい。



<参考文献>

日本のスナメリ研究最前線 仙台湾のスナメリについて